

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 1 LESSON 6 授業例②

I.M. 先生

指導計画表

(全 11 時間)

時間	学習内容・主な活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ■とびら プレ活動 ■帯活動の会話練習 ・「3人称・単数・現在形」の文を使った会話の意味確認と読みの練習 ■GET Part1 ・語句・表現の導入
2	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part1 ・文法「3人称・単数・現在形」の文(肯定文)の導入と drill を使って練習 ・本文の導入・説明/理解・音読・練習・暗記・リプロダクションの練習
3	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part1 ・本文の復習とリプロダクションの発表 ・Practice / Speak の表現の導入・練習・ペア活動でインタビュー ・Practice / Write 友達の生活について書く
4	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part2 ・語句・表現の導入 ・文法「3人称・単数・現在形」の文(疑問文とその応答・否定文)の導入と drill を使って練習 ・本文の導入・説明/理解・音読・練習・暗記・リプロダクションの練習
5	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part2 ・本文の復習とリプロダクションの発表 ・Practice / Speak の表現の導入・練習・グループ活動で発表しあう ・Practice / Write 教科書の内容について質問を作り、答えを書く

時間	学習内容・主な活動
6	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part3 ・語句・表現の導入 ・文法「疑問詞を含んだ3人称・単数・現在形」の文の導入と drill を使って練習 ・本文の導入・説明/理解・音読・練習・暗記・リプロダクションの練習
7	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part3 ・本文の復習とリプロダクションの発表 ・Practice / Speak の表現の導入・練習・ペア活動で尋ねあう ・Practice / Write, Speak で尋ねあった内容で質問を作り、答えを書く
8	<ul style="list-style-type: none"> ■USE Mini-project ・友達にインタビューして紹介文を書く
9	<ul style="list-style-type: none"> ■USE Mini-project ・紹介文の発表
10	<ul style="list-style-type: none"> ■まとめ 文法の要点
11	<ul style="list-style-type: none"> ■まとめ 音読テスト / 筆記テスト

実践例

1. そのレッスンでねらったこと、 力を入れようと思ったこと

(1) 1年生授業での英語習得の考え方

私の指導の根本をなす考え方は Anderson の cognitive psychology (Anderson, 2005) によるところが大きい。新情報はさらに新しい情報に押し出されるため、short-term memory には長くとどまらないうが、継続的な練習によって記憶が強化され、パターン化されて、long-term memory に移行するという理論である。power law of learning and power function (Newell and Rosenbloom, 1981) でも言われているように、練習すればするほど、その度に記憶は強化され、その記憶を取り出すのも速くなるのである。従って、授業では英語使用の場面を多く作り、同じことを何度も練習させることによって記憶を強化させるという指導法を行っている。GET は input, intake, knowledge が中心、Practice や USE で output という教科書のねらいに則して指導している。Practice や USE, We're Talking のページなどは production-based instruction (Ellis, 1997) を行うため、Creative & Critical Thinking の育成のために大変重きを置くことができる。本ページでは英語文構造を築く GET に焦点をあて、input と intake のための指導法を説明するが、それはパターン化した方法なので、特に LESSON 6 だけで実施していることではない。

LESSON 6 でねらったこと、力を入れていることは、どの課にも共通しているといえる。1年生の授業では、小学校の「聞く・話す」から「読む・書く」につなげる指導を終えた後、新出語や文型の導入後に行う oral drill 及び教科書本文の音読と暗記 reproduction に時間をかけることが重要である。それは英語学習の最も土台となる英文の語順、構造の構築にねらいをおくスタイルで授業を実施することである。つまり教科書本文を暗記できるまでていねいに指導し、教科書にある基本文や本文が自然に口から出るようにしているところに特徴がある。

(2) 教科書使用の考え方とスタイル

基礎をしっかりと定着させるためには、教科書を土台とする指導方法が大切である。習得・定着のためには、説明を聞いただけでは効果がないのはわかっているため、私の授業スタイルは、生徒にできるだけ多く英語練習の時間を与えることである。その結果、動いて話すことが多いため、眠くなったり、飽きたり、ぼーっとする生徒は見られない。さらに友達と話す練習をするので、教師の話をよく聞いていないとどう動くかわからなくなってしまうので、説明を聞くときはとても集中するという習慣がつく。表の流れのとおりである。

<p>「常活動」 intake</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>英文構造を使用することによって英文ストラクチャーを築く。既習事項であったり、予習的な内容であったりであり習っているかどうかという点にはこだわらない。理由は毎回違った内容を実践するよりは最低5回以上は同じ内容で行うことに意義がある。</p>
<p>「理解」 input</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>場面設定で新文構造を暗示、生徒の notice (Schmid,1990), 明瞭な説明、または始めから日本語で明確に説明することにより目標文法項目を理解させる指導法。指導する文構造によってどちらにするか判断する。</p>
<p>「練習」 intake</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>口頭練習や暗記、音読などで練習。文型や表現を分析せず自然に口から出るようになることをねらった指導法。</p>
<p>「使用」 output</p>	<p>実際に英語を「活用・使ってみる」状況をつくる指導法。 Reproduction や自分の考え、生活を表現することは、Creative & Critical Thinking を育成するのに効果的。</p>

(3) 生徒の習慣づけが大切

ア) ペアワーク・グループワークの仕方を4月に訓練し、慣れた後は一言のみで生徒が動けるようにすることが大切である。以下の活動を徹底する。(資料1)

- ・ Snake Move
- ・ Three Wheels Move
- ・ Octopus Move
- ・ Turn Around Activity
- ・ Shinkansen Activity
- ・ Look Up Activity
- ・ Shadowing
- ・ Group Activity

イ) 書く練習は宿題や自主学習になることが多いため、生徒への意欲付けと必ず行うという習慣を生徒に身につけさせる教師のスキルが必要である。

ウ) 作業指示が多い授業となるため、4月、5月初旬の年度始めにしっかりと授業取り組みの訓練を生徒に徹底する。一言の指示ですばやく動く習慣付けがキーとなる。

(4) ノート作りの充実

ノートのパターンを決めて、ノートを作成させる。ねらいは復習しやすいことであり、教科書の参考書的な存在となる。授業の時間をなるべくオーラル練習に当てるために、ポイントは教師が事前に、ノートに合わせたサイズで作成しておき(資料2)、ノートに糊で貼りつけさせる。生徒はマーカーで線を引いたり、大切なところのみ書けたりするようにする。

(5) インストラクションをなるべく英語で行う**(資料3)****(6) Homeworkの徹底**

「言語活動(Practice)は、意味伝達や自己表現、発話行為を目指すため、その前段階で英文の文法構造と意味の結びつきを意識させる文型ドリルは不可欠である。」(今井裕之,2013)とされているように、授業はoral practiceが多くなる。そのため、書く力を身につけさせるには宿題は欠かせない。パターン化して年間同じような形で続ける。私の場合は以下の3つのことである。ノートは授業用と練習用の2冊を準備させる。

・新しい単語をノートに書き、その意味を調べる。教科書の本文を写す。(授業用ノート)

・習った本文を3回ずつ書き練習する。(授業用ノート)

・英語練習ノートを週に4ページやり、毎週1回提出。徹底することが大切。(英語練習用ノート)

(7) LESSON 6で特に配慮

LESSON 6は「3単現のsとそれに付随する疑問文や否定文の習得であり、英語学習の初期段階における最大の難関といわれている。したがって、性急に定着するのはむしろ難しく、言語活動を繰り返し指導しながら、時間をかけて定着を図る必要がある」(NEW CROWN 教師用指導書,2012)、何度も音に出して習得していく方法をさらに強化する。知識習得のためには明瞭に説明するが、大切なことは何度も声に出し、新英文に慣れることである。従って、英文構造定着のinput, intakeは、教科書の英文を徹底的にoral drillで行い、教科書の文が自然に口から出ることを目指す。この暗唱からreproductionにつながるoutput活動は、自然な流れでできるようになる。3単現のsを学習することにより、自分と相手以外の人物などの話題について、説明するという本格的なreproductionができるからである。絵・写真・key wordsや日本語訳をみせながら、教科書内容に書かれた内容を口頭で再生する活動ができる。PracticeやMini-project, We're Talkingでは、このinput, intakeを土台として、自分の身近なことや友達紹介などプレゼンテーションなどができるようになり、output活動につながる。

2. レッソンの導入からまとめまでの流れがわかるように記述**(1) 帯活動 (intake) (資料4)**

本時の内容指導に入る前に、毎時間5~7分くらい、Pair-Talk(帯活動)を行う。レッスン全部を通して毎回同じダイアログを繰り返すことで情報をパターン化させ、その情報を脳にとどめるために有効な活動である。本課は3単現と時間に関する会話である。英文構造の定着に重きを置くため、既習、

未習こだわらずに課の第1時からやらせる。初めての時に意味程度の内容説明と発音を練習させるので25分くらい時間がかかるが、2回目からは7~8分におさえる。

(2) GET の指導

input	<p>1) 新出語意味・発音の導入 単語の意味調べは家庭学習、そして授業では意味の確認と発音をし、あまり時間をかけない。動詞だけは、1年生であっても印象づける必要があるの で、常に赤線を引く。</p>
input	<p>2) 目標文法項目の指導 目標の文法項目は、明示的な説明または英語での暗示的な指導（佐藤臨太郎, 2013）で生徒に理解させるが、この課の3単現は明示的、時間に関する表現は英語での暗示的な指導で行う。ポイントは、Oral Drill に時間をかけられるようにするため、この文法説明にはあまり時間をかけない。教師は、文法説明や簡単な練習問題をハンドアウトに事前に準備し、それをノートに貼れるようなサイズに切っておき、生徒はノートに糊で貼るようにする。</p>
input	<p>3) 基本文の定着 3単文構造は、始めに notice (Schmid, 1990) があるように、有名人などを使い暗示的な指導法で導入。その後一斉指導により知識を習得させ、オーラル練習でその定着を図る。ノートに貼った文法説明は、一緒に読んだり、マーカーで線を引かせたりする。その後定着を図るための活動を行う。ここでのポイントは、いかに生徒に飽きさせず、何度も繰り返し声に出させ、文構造をマスターするかにある。この活動はいくつかあるが、私の場合は、Shinkansen Activity, Turn Around</p>

	<p>Activity, Look Up Activity, Octopus Move (資料1) などいくつか用意しておく。基本文の難易度でどれを使うか決める。</p>
intake	<p>4) Drill をオーラルで練習 基本文の定着後に、ドリルは欠かせない。そのため教科書の Drill をフルに活用(資料5)。一斉でオーラルに練習をし、その後、Pair-Talk を Three Wheels Move または Snake Move で行う。友達と対話をするので、必ず言えるようにするためどの生徒も必死で練習をする。 教師の「Move。」のひとつで次々とパートナーを変え、何度も練習した後「Go back to your seats.」で座席につかせる。数名指名して全体の前で対話させるが、練習の後なので、ほぼ全員が自信をもって言うことができる。さらにこの後に、ノートに書かせる。ほぼ全員がすでに暗記しているのですらすらと書いていくが、教師も黒板に書いていく。自信のない生徒は参照できる。さらに書いた後に、新文法の要点にマーカーを引かせるなどして知識の定着の確認ができる。</p>
input	<p>5) 教科書本文の oral introduction・説明 映像やピクチャーカードなどを使用しての内容紹介になる。生徒との英語でのインタラクションを図りながら、人物や場面の紹介をオーラルでし、内容の確認を行う。USE や Read では、英文や意味は () で埋めるような形式で教師が準備し、ノートに貼れるサイズに切り、ノートに糊で貼らせる。GET の場合は、宿題でノートに教科書本文を書かせておき、授業では、内容の確認、文構造やフレーズの使い方などのメモをとらせる。もちろん教師は</p>

	<p>黒板を利用して説明するが、この場面にも時間を多く使わないよう時間配分に気をつけ、読みの練習と暗記に力を入れる。</p>
intake	<p>6) 音読・暗唱</p> <p>内容をしっかり把握してから、音読練習をさせ、会話を暗記させるところまでもっていく。始めは Look up の方法で、教師の拍手にあわせながらリズム良く、会話を一斉に読んで言うのを繰り返す。「読み、拍手で上を向いて暗記して言う、次の文の読み、拍手で Look up 暗記して言う」ことを繰り返しながら、何度か本文の練習を一斉に行う。その後 CD を使い、shadowing をし、音の強弱、リズムなどを正確に習得させる。次はクラス全体が動く Snake Move ペア活動を行う。15 人くらい相手を変えての練習となるが、始めの 4 人が終わったところで、"Close your textbooks. Don't look at your textbooks. Recite the dialogue." と指示をし、なるべく暗記して言えるように練習させる。もちろん思い出せない場合はチラッと教科書を見てもよいと言っておく。レベルを超えた課題の場合はやる意欲を失ってしまうので、無理強いはしないが、ほとんどの生徒は暗記できる。</p>
output	<p>7) 暗唱から Reproduction (key words や絵、日本語を頼りに)</p> <p>「Go back to your seats.」の指示で全員座席に着かせた後、教科書の音読練習の発展で、reproduction (資料 6) を取り入れる。アイコンタクト、挨拶や相づち、終わりの言葉のあるバブルスピーチ (資料 7) を黒板に貼り、常に見えるようにしておくが、自然にその援助も必要としなくなる。4 月 5 月の</p>

	<p>初期の段階で徹底的な訓練が必要。教科書のダイアログを利用しながら、生徒は自然な対話を行うことができる。聞き役の生徒も楽しみながら自然な形で教科書 GET の内容が習得される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Picture Cards, key words または日本語訳を見て本文を再現して言う。 ・ ペア指名をし、reproduction ではあっても、オリジナル化した会話をさせる。挨拶 (Hi, How are you? I am hungry.), つなぎ言葉 (Really? / Wow! / Uh-huh. / Cool. / Excuse me? / Thank you. / See you... など) の使用を付け加えることで表現がふくらむ。
output	<p>8) Creative & Critical Thinking の育成</p> <p>上記のように GET での input, intake で英語構造文習得後、Practice やそれ以外のページでは output での Creative & Critical Thinking の育成となる。紙面に限りがあるため、本ページではこの output は説明してないが、英語指導での最も大切な場面であり、各課のゴールと考えている。</p>

3. 実践内容を振り返ってみての 自己評価及び生徒の反応

この GET の指導では、教科書内容を使って文構造の知識をしっかりと身につけさせることをねらいとし、オーラルドリルや暗唱して言う活動を取り入れているため、生徒が英語を声に出して言う場面が多い。以下のようなメリットがある。

- ・ 生徒一人ひとりが活発に授業に参加し、ほぼ全員の生徒がモデル文を暗唱できるようになる。
- ・ 活動が伴うため、50 分間説明を聞き続けることはなく、さらに聞くという集中力を必要とされるのも短く、練習時間が多くなることと、考えるという脳細胞を活発化させるということから、授業

- に飽きてしまうとか、友達とおしゃべりを始めてしまうという生徒はほとんどいない。
- ・多くのクラスメートと英語の練習をするので、一人ひとりが楽しみ、活気ある授業になる。
 - ・書く活動は十分にドリルをして言えるようになるまで行わないので、言うことに集中できる。また十分に暗記してから書く活動になるため、黒板や教科書を見ずに基本文やドリルの文が自分の言葉として頭に浮かび、それをノートに書くという自然な形になる。
 - ・活動をするためには、しっかりと教師の説明を聞く必要があり、生徒は必然的に授業に集中する。
 - ・ALT との TT の時は生徒と一緒に活動するようにする。多くの生徒が ALT と 1 対 1 で会話をする機会をもつことができ、学習意欲の向上につながる。

先日、このメソッドを使用しての公開研究授業を同僚が実施したところ、以下のような声があった。

(1) 生徒から

- ・言うことで、今日のポイントの文が言えるようになった。
 - ・新しい単語や文を言ったり、書いたりすることにチャレンジできてよかった。
 - ・決まった文だけでなくもっと言いたかった。
 - ・もっといろいろな人のことについて言いたかった。
 - ・たくさん英語が話せて、楽しかった。
 - ・文字を見ないで言えなかったのが残念だった。
- ※自己評価の理解の程度を問う質問で、「よくわかった」が74%、「わかった」が16%で、90%の生徒が内容を理解したという回答であった。

(2) 参観者より

- ・全員が前向きに学習に取り組み意欲的になる。Slow Learners も遅れをとらぬよう、必死に学習をする。
- ・徹底した口頭練習を通して暗唱をしてから発表を行っていた。テンポよく進んでいたため、生徒は飽きることなく、楽しく集中していた。内容も自然と暗唱できるよう工夫されていた。
- ・生徒が組織化されてよく動いている。

- ・テンポが速くて、リズム感が良く、退屈しないような工夫がなされている。
- ・生徒は、教師の声ひとつで、どのように動けばよいかそのパターンをわかっているのだから、安心して授業に取り組んでいて、活気がある。
- ・参観している自分たちも、生徒の中に入ってやってみたいような授業である。
- ・「暗唱できた」「教科書を見ずに友達と会話できた」という達成感が「わかった」という生徒の理解と自信につながっているようだ。

【参考文献】

- Anderson, J. R. (2005). *Cognitive psychology and its implications* (6th eds.). New York: Worth Publishers and W.H. Freeman and Company.
- Ellis, R. (1997). *Second language acquisition*. New York: Oxford University Press.
- NEW CROWN 編集委員会. (2012). *NEW CROWN English Teacher's Manual*. Japan: 三省堂
- 今井裕之. (2013). 言語活動再考. *Teaching English Now*, 25, 02-05. Japan: 三省堂
- 椋葉みつ子. (2013). 習得レベルの言語活動一表現させるための Drill・Practice の指導の工夫一. *Teaching English Now*, 25, 06-07. Japan: 三省堂
- 佐藤臨太郎. (2013). 活用レベルの言語活動一「理解一練習一使用」という流れの授業において. *Teaching English Now*, 25, 08-09. Japan: 三省堂
- 田邊祐司.(2013). 授業マネジメントの勘どころ：指導言の改善を求めて (2. *Teaching English Now*, 26, 14-15. Japan: 三省堂